

# 活動成果報告書

平成26年度（第18回）「チヨダ地域保健推進賞」

## 活動テーマ

多治見市の妊娠期からの切れ目のない育児支援

～民間の子育て支援団体と連携した産後の子育て支援教室の取り組み～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

多治見市市民健康部保健センター母子保健グループ

代表者：木村 ゆかり

勤務先：多治見市

所 属：市民健康部保健センター

所在地：〒507-8787

岐阜県多治見市音羽町1-71-1

TEL：0572-23-6187

FAX：0572-25-8866

E-Mail：hosen@city.tajimi.lg.jp



## ◇活動方針

多治見市ではハイリスク妊婦への妊娠期からの支援を行っている。日頃の母子保健事業から、人との関わりを苦手と感じ地域の母親達の集まりになじめない母親や、育児に自信がなく不安のある母親など、子育ての大変さを感じる母親が増えている現状がみられる。また、妊婦の高齢化に伴う様々なリスクの増加、未婚、未入籍、経済的に不安定などの家庭環境に問題を抱えた妊婦の増加、不安の強い妊婦の増加は産後の育児不安につながり乳幼児期の支援が欠かせない状況である。子どもが健康に育つために、また親が子どもの発達成長過程を知り、子ども自身の育ちを支える力をつけていく為に、妊娠期から出産、育児期に至るまでの連続した支援が必要となっている。

平成24年度からは、「たじみ子ども未来プラン」及び「親育ち4・3・6・3たじみプラン」により、妊娠期から乳幼児期の子育て支援や親育ちのための事業に力を入れ、民間の子育て支援団体と共同しプラン推進に取り組んできた。「親育ち・子育て」を行政のみで完結せず、連携を図り地域につなげていくことで、継続した育児支援体制づくりを進め、子育てに不安を抱え孤立する母親の育児を支援していくことを目指している。

# 活動成果報告書

## ◇活動内容とその成果

平成 14 年度より、仲間づくり・絆づくり・学びを目的に、生後 1～4 カ月頃の第 1 子とその母親を対象とした産後の子育て支援教室「すくすく教室」を実施している。母親同士の交流を中心として、保健師、栄養士の他、母子保健推進員、保育士、民間の子育て支援団体が参加して行っている。平成 23 年度から、マタニティセミナー参加の妊婦との交流会を開始、平成 24 年度からは、産後の育児不安が高まる 2～3 カ月頃に出来る限り多くの対象者が参加できるよう、教室を毎月開催出来る体制を整えた。平成 25 年度には、民間の子育て支援団体が実施する子育てプログラム「親子の絆づくりプログラム」（市補助事業）と連携を図り、育児支援を地域につなぐ取り組みを行ってきたので、その活動内容を評価検討した。

**【平成 25 年度すくすく教室】** 全 2 回コース 年間 12 クール開催（毎月開催）

	内容	目的
第 1 回目	仲間づくり・保育士による赤ちゃんとのスキンシップ・子育てに関する情報交換・先輩ママとの交流	赤ちゃんとの生活を知り、子育て不安が軽減する
第 2 回目	骨密度測定と結果説明・栄養講話・絵本の読み聞かせ マタニティセミナーの妊婦との交流（隔月開催）	母自身の健康づくりの意識づけ 母としての成長を実感し自信がもてる

### ① 事業目標

- ・第 1 子の 5 割以上が参加する（教室参加率：H23＝50%、H24＝59.2%）
- ・教室参加者が、安心して育児することができている

### ② 対象と対象者数

概ね生後 1～4 カ月児（原則第 1 子）とその保護者（母親）  
年間対象者約 350 名 うち参加申し込みのあった親子

### 「成果と今後の計画」

産後、はじめてのお出かけの場として保健センターで実施する「すくすく教室」に多くの第 1 子母子が参加できることが、産後の不安軽減や前向きな育児につながると仮定し、第 1 子赤ちゃん訪問での教室参加の声かけや対象者への教室案内チラシの郵送配布、広報やホームページを利用して参加勧奨を行った。特に妊娠期からのハイリスク者には、今後の育児支援も含め丁寧に関わることを心がけた。

### ① 平成 25 年度すくすく教室実績

開催クール	実参加者数	延参加者数	第 1 子教室参加率
1 2 回	1 8 2 組	3 4 1 組	5 6. 2 %

### ② 参加者アンケートの結果（集計対象者 33 名、教室参加者 14 名、うち妊娠中からのハイリスク者 3 名）

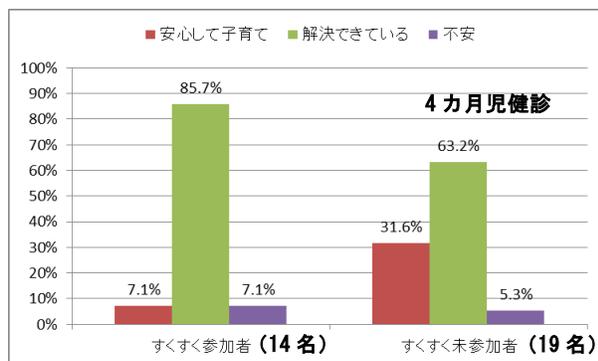
すくすく教室参加者の教室参加効果を評価する為に、赤ちゃんがいる生活が始まってからの育児観を、健診の間診票アンケートを利用し実施した。教室参加群（14 名）と未参加群（19 名）を比較し、4 カ月児健診～10 カ月児健診に渡り経時的に集計評価した結果、下記の通り課題が整理できた。

1. ハイリスク者は教室参加自体が育児支援であり、教室後も引き続き継続した支援が必要である。
2. 育児支援者がいない母は、母自身の体調に何らかの症状（疲れやすい、イライラしやすい）があった。
3. 教室参加群は、月齢が進むにつれて「心配なことが多くて不安」割合が上昇した。
4. 教室未参加群は、月齢が進むにつれて「安心して育児できている」割合が増えていた。

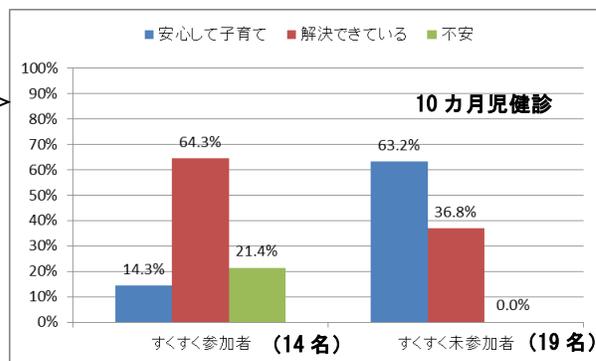
# 活動成果報告書

## 【教室参加者と未参加者の、育児に対する気持ちの変化】

(4カ月児健診時と10カ月児健診時の育児観の比較)



教室参加者に、育児が不安と答えている者が若干多い。



教室参加者に、育児が不安と答えている者が増加した。未参加者は、安心して子育て出来ている者が増えた。

### ③ 考察

すくすく教室は、保健師が教室参加を積極的に働きかけた妊娠中からのハイリスク者が多く参加している為、教室参加群に心配や不安が多い割合が高くなっていることが考えられる。このことにより、育児のハイリスク者に対し、出来る限り早期から関わりを持ち、育児期への継続した支援が必要と考えられる。

### ④ 成果

1. 民間の子育て支援団体が教室に参加することで、参加者と顔の見える関係を築き、社会資源及び身近な相談場所の提供ができて育児不安の解消につながった。
2. 教室参加者を、民間の子育て支援団体が行っている「親子の絆づくりプログラム」につなぐことで、母親同士の交流や体験・学びが深まった。また、子育てに不安を抱え孤立する母親の育児を継続支援していくことが可能となった。

### ◇今後の計画

#### 【民間の子育て支援団体と連携した育児支援の取り組み】

保健センターでは「すくすく教室」を通し、産後の育児支援を行ってきた。事業開始当初より、民間の子育て支援団体の活用により、時代と共に変化する母子の問題点や育児ニーズを共通の認識としてとらえることが出来ている。また、民間の「親子の絆づくりプログラム」に、保健師が実際に関わっていたことで「すくすく教室」の目的と一致していることや、その機能及び効果についても把握し、評価することが出来た。

平成25年度の事業評価により、今後の保健活動の優先課題は、育児支援教室に参加出来ない育児のハイリスク者への支援であると考えた。その為には、妊娠中からのより丁寧な関わりが重要である。そのような活動にシフトしていくために、平成26年度から育児支援教室の運営を民間の子育て支援団体に移行した。保健師の活動としては、最近増加しているパニック障害やうつ病等、こころの病気を抱えている母親への「妊娠期から育児期までの継続した個別支援」に重点を置いた取り組みが必要と考え、以下のように事業の在り方を検討した。

- ① 平成26年度から導入している地区担当制による保健活動で、妊娠期から育児期に渡り、母親が安心して子育てができ、親子の良好な関係が築ける為の母親支援及び、ハイリスク者への地域への継続支援体制を築く。
- ② 地域の子育て支援団体と連携して育児支援に取り組むことで、母子を中心としたネットワークづくりを目指す。

以上